

# 岡山市民版

Okayama

電子版なら他の地域版も読める  
**山陽新聞デジタル**  
<http://www.sanyonews.jp>

編集局報道部  
まち取材班

FT AXL 0086-18003-  
FAEL 0086-18003-  
seiji@sanyonews.jp  
FT AXL 0086-18003-

「プラウド岡山」は、

県内で活動する性的少数者(LGBT)の自助グループとして2014年に発足した。悩みなどを相談し合える茶話会を開いたり、パンフレットの作製や講演会を通じて啓発活動をしたりしている。

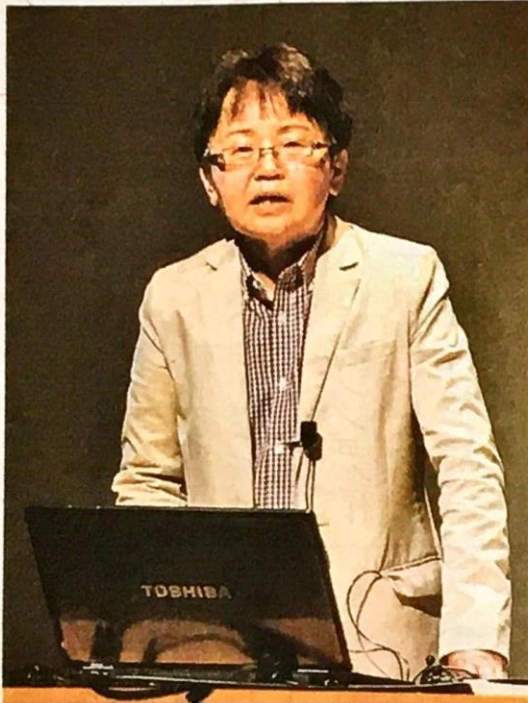
LGBTはどんな人かと尋ねると「芸能界の人」「私の周りにはいない」という声が返ってくる。倉敷市が昨年、市民モニターに行ったアンケートでは7割以上が言葉を知っていても、7割近い人が会ったことがないと答えている。一方、民間の調査会社の推計では国民の7・6%が該当するという数字が出ていて、周りにいないのではなく、

## 多様な性を知ろう～LGBTってなあに？

プラウド岡山 鈴木富美子代表

### 認め合い生きること大切

見えない、当事者が口に出せないのが現状だ。性の在り方は、体の性、性自認、性的指向、性役割という四つの物差しで組み合わせで表現できる。「LGBT＝性的マイノリティー」とひとくくりにされるが、同性愛のレスビアンとゲイ、両性愛のバイセクシュアル、LGBTに当てはまらないと感ずる当事者もいる。心は男性でも女性でもなく、LGBTに当てはまらないと感ずる当事者もいる。心は男性でも女性でもなく、LGBTに当てはまらないと感ずる当事者もいる。心は男性でも女性でもなく、LGBTに当てはまらないと感ずる当事者もいる。



トイレに入りづらかったりと、当事者はさまざまな問題を抱えている。同時に同性カップルを公認しようという自治体の動きも出てきており、対応は進んできている。一番問題なのは、差別や偏見で、特に子どもたちの問題だ。

7日に岡山市内で開かれた「市民のつどい」(市、市教委主催)で、「プラウド岡山」の鈴木富美子代表(54)が「多様な性を知ろう」をテーマに講演した。一人一人の性の在り方は大切だ。

性同一性障害などを抱えた子どもは、小学校入学前に何らかの違和感を覚えていること。私たちが調査などで分かっていて、自我を確立する前の子どもが、性的少数者に関する否定的な情報や偏見にさらされると、自己肯定感を育むことは難しくなるだろう。子どもたちの問題と、これは学校生活にとどまらず、就職や結婚など人生の節目に影響し、生き方やライフスタイルといった人生の根幹にかかわってくる。一人一人の性の在り方は大切だ。

アニメスポーツ映画  
専門チャンネルもきれいに見  
OPENINGのバイビ